

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
司	シつかさ つかさどる								王勃詩序
教4 常①									
史	シさかん ふびと ふみ								王勃詩序
教4 常①									
叱	シツ カ シチ しかる								瑠玉集
新①									
召	ショウ めす まねく								聖武天皇雜集
常①									
台	タイ ダイ うてな								最澄
教2 常①									
臺	②								聖武天皇雜集
臺	③								鄭晉指歸

【司】金文の異体字は、説文には「辭」の籀文として載っており、康熙字典には「司」の古文として載っている。

【召】干祿字書に〈正〉が2種ある。

【台】「台」と「臺・臺」とは元々は別字。漱石は「基所」、「屋基」、「舞臺」など一貫して「臺」を用いる。文部省活字に

「台」が無いにもかかわらず、太宰は「屋台」など「台」を用いている。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
司	司	司	司				司	司	司	司		司
粘葉本朗詠	節用	口2										現代中国
司	司	司										
粘葉本朗詠	人通俗説弁義	古文										
史	史	史	史	史			史	史	史	史		史
粘葉本朗詠	本佐録	口2										現代中国
			史									
			叱	叱	叱	叱	叱					叱
			女消息往来	口2			教科書					現代中国
召	召	召	召	召			召	召	召	召		召
天治万葉巻	節用	口2										干祿<俗> 現代中国
台	台	台	台		台		台	台	台	台		台
粘葉本朗詠	節用	口2			明治の漢字							現代中国
臺	臺	臺	臺	臺	臺		臺	臺	臺	臺		臺
粘葉本朗詠	再版農業全書	至8			明治の漢字							干祿<俗> 北條・論経書註
臺	臺	臺										臺
粘葉本朗詠	日本居家秘用	至7										江戶干祿<俗> 北條・元洛神集註

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
只	シただ 人①		𠄎	只					只 鄭警指歸
叩	コウ たたきたたく ①			叩	叩		叩	叩	叩 孔穎達碑 干祿字書 瑞玉集
吋	インチ ①								
各	カク おのおの 教4 帯①	𠄎	𠄎	各	各	各	各	各	各 杜家立成
		𠄎	𠄎	各					
		𠄎	𠄎						
		𠄎	𠄎						
吉	キチ キツ よい 帯①	𠄎	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉 郭武天皇雜集
吉		𠄎	吉	吉					
		𠄎	吉	吉					
		𠄎	吉	吉					
吃	キツ どもる ①		𠄎	吃	吃				吃 武威漢簡
吸	キョウ すう 教6 帯①		吸	吸	吸	吸	吸	吸	吸 鄭警指歸

【叩】説文にない。篆書は「叩」で代用する。
 【各】古代は「𠄎」や「𠄎」が加わった字体もあったようだ。
 【吉】「吉」いわゆる「さむらいよし」と、「吉」いわゆる「つちよし」問題。古代はどちらでも良いらしい。説文篆文がたまたま「吉」だったために「吉」が正字になった。漢代の隸書

以降は「吉」が圧倒的に多い。五経文字は説文篆文にならな
 くて「吉」だが親字としての掲載はなく、他の字の説明中にある。日本でも「吉」が圧倒的。江戸時代は使用例が少ないが「吉」も現れる。弘道軒には「吉」「吉」の両方がある。漱石は「吉」「吉」の両方を使っている。太宰は「吉」しか使って

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
只	只	只	只	只			只	只				只 現代中国
叩	叩	叩	叩	叩			叩	叩				叩 現代中国
			吋	吋			吋					吋 現代中国
各	各	各	各	各			各	各	各	各		各 現代中国
吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉		吉 現代中国
	吉		吉	吉								
吃	吃	吃	吃	吃			吃					吃 現代中国
吸	吸	吸	吸	吸			吸	吸	吸	吸		吸 現代中国

おらず、正字や明朝活字の影響を見てとれる。
 【吸】康熙字典では「口」部の4画。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
叫	キョウ さけぶ 常①		𠂔				𠂔𠂔𠂔𠂔	𠂔𠂔𠂔𠂔	𠂔𠂔𠂔𠂔
								𠂔𠂔	
向	コウ むかう むける むかひに まきむき 教3 常①	𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔
后	コウ きさき きみ 教6 常①	𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔
合	ゴウ カフ あう あわす あわせる 教2 常①	𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔
吊	チョウ つり つる つるす ①	𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔
弔	チョウ とむらう つる 常①	𠂔 𠂔	𠂔	𠂔			𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔
吐	ト はく 常①		𠂔	𠂔 𠂔			𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔

【叫】手書きでは旁を「𠂔」に作ることが多い。康熙字典は「口」部の2画。現代中国では2画。当用漢字字体表は3画。
【向】上部は「𠂔」になるはずの字だったようである。
【后】『漢語大字典』に〈甲骨文「后」字即「毓(育)」字、像婦女產子形〉とある。『陸軍幼年学校用事便覧』は「後」の許

容字体として掲載され、「𠂔ハ別字」と説明がある。
【吊】干祿字書、康熙字典ともに「吊」は「弔」の俗字としている。『陸軍幼年学校用事便覧』は「𠂔ハ別字」としている。字体の変遷をみるかぎり、「吊」と「弔」は異体字と見て良いだろう。「吊(つる)」と「弔(とむらう)」という意味はいつ

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		𠂔		𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		𠂔 現代中国
𠂔												
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔		𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		𠂔 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔		𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		𠂔 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔		𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		𠂔 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔		𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		𠂔 現代中国

分かれたのか。江戸期は「弔」を「つる」、「とむらひ」、「吊ひ」を「とむらひ」、「とむらひ」と読むなど意味は分かれていない。『陸軍幼年学校用事便覧』(大正3年編纂、昭和13年改訂)では「吊」を「弔」の許容字体として扱っているから、まだ意味は分かれていないと見るべきだろう。太宰は「吊」と

「弔」を明確に使い分けている。とすると「吊」と「弔」の意味が分かれたのは、昭和13年から23年の間ということか。現代中国では「吊」と「弔」は「吊」に統合されているようだ。間に草書を介すると「弔」から「吊」ができた過程が理解できる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
同	ドウ おなじ								
名	メイ ミョウ な								
吏	リ								
含	ガン ふくむ ふくめる								
吟	ギン								

【名】曹全碑の「夕」は一画多い。
 【吟】説文篆文に旁が「金」の或体がある。「今」と「金」の音が似ているからだろうか。また偏が「音」に従う字と、「言」に従う字がある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												同 現代中国
												名 現代中国
												吏 現代中国
												含 現代中国
												吟 現代中国

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
告	コク つける								九経<説文> 告
告									九経<隸省> 告
吹	スイ ふく								聖武天皇集 吹
皇	テイ								杜家立成 皇
皇									
呑	ドン のむ								王勃詩序 呑
呑	人③								周玉集 呑
呑	ヒイ な								
吻	フン								

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												告 現代中国
												吹 現代中国
												皇 現代中国
												呑 現代中国
												呑 現代中国
												吻 現代中国

【皇】「皇」と「呈」は異体字。説文に従えば「皇」が正字体。唐代の正字体は見えないが、康熙字典では「皇」を採用。慣用字体の中国での使用例は「皇」が優勢だが、日本では「呈」が優勢。これは上代に伝わった字体が「皇」だったからではないだろうか。明朝体の字体は康熙字典以来、正字体の「皇」

だが下部が「ノ+土」のものと「ノ+士」のものがある。当用漢字字体表は、現代に近い時代に手書きで書かれてきた字体を採用する傾向があり、中国は歴史的に使われてきた字体を採用する傾向があると思う。中国が俗体と思われる字体を採用しているのはめずらしい。なお、「陸軍幼年学校用字便

覧」では「扌」と「呈」を「元は別字」とする。【呑】「呑」と「呑」は異体字。説文も、中国や日本の慣用字体もほとんど「呑」を使っているのに、使われていない「呑」をJIS第一水準に「呑」を第三水準にしているのは不思議だ。なお、人名に使えるのは人名用漢字の「呑」で、「呑」はJIS

第一水準ではあるが、常用漢字でも人名用漢字でもないので人名には使えない。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
呆	ホウ ボウ あきれる								
吠	ハイ ハイ ほえ ほえる		吠	吠		吠	吠	吠	吠
								吠	
呂	ロ リョ 人→新①	呂	呂	呂	呂	呂	呂	呂	呂
		呂	呂	呂	呂	呂	呂	呂	呂
		呂	呂	呂	呂	呂	呂	呂	呂
呼	コ よぶ	呼	呼	呼	呼	呼	呼	呼	呼
		呼	呼	呼	呼	呼	呼	呼	呼
咋	サク サク く く								
舍	シャ やどる	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍
舍		舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍
		舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍
		舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍

【呆】明治よりも前の手書きの使用例がみつからない。
 【吠】旁を「友」や「友+点」とする字体もあったようだ。
 【呂】「口+口」の字体と、「口」と「口」をつなぐ線がある字体「呂」の2種がある。中国では「呂」が出現するのは後漢の隸書だけで、その前後の時代は「口+口」の字体。説文解

字の篆文は「呂」だが、説文解字も後漢に編まれたもの。後漢の隸書が説文解字に影響を与えているか、あるいは説文解字が後漢の隸書に影響を与えているのかもしれない。九經字様は「口+口」の字体を(隸省)としているが、そんなことはない。日本でも上代から平安にかけて「口+口」の字体。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
		呆	呆	呆			呆		呆			呆
		吠	吠	吠			吠					吠
		呂	呂	呂			呂		呂			呂
		呼	呼	呼	呼		呼	呼	呼	呼		呼
		咋	咋	咋								咋
		舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍	舍		舍
												捨

現代の「呂」は康熙字典の影響を受けていると思われる。現代中国では伝統的な字体に倣って「口」と「口」をつなぐ線がない「口+口」を書く。拓本の九經字様では「口」と「口」をつなぐ線が垂直だが、江戸の版本の九經字様では斜め。
 【呼】初文には「口」がなかったようだ。

【舍】『JIS漢字辞典』では「舍」が「口」部に、「舍」(第二水準)が「舌」部にある。『漢字海』では「人」部。康熙字典では「舌」部。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
呪	ジュ シユウ まじない のろい のろう まじなう						呪呪呪	呪	龍造寺論語目録
呪	②							呪	御書指歸
周	シュウ まわり あまねし めぐる						周周周周周周周周周周	周	王勃詩序
味	ミ あじ あじわう						味味味味味味味味味味	味	杜家立成
命	メイ ミョウ いのち みこと						命命命命命命命命命命	命	王勃詩序
和	ワ・オ なごむ なごやか やわらく やわらげる						和和和和和和和和和和	和	王勃詩序
味								和	江戸九経序
齋									
哀	アイ あわれ あわれむ かなしい						哀哀哀哀哀哀哀哀哀哀	哀	王勃詩序

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
呪呪呪呪	呪	呪	呪				呪	呪				呪 現代中国
周周周周周周周周周周	周	周	周	周	周		周	周	周	周		周 現代中国
味味味味味味味味味味	味	味	味	味	味		味	味	味	味		味 現代中国
命命命命命命命命命命	命	命	命	命	命		命	命	命	命		命 現代中国
和和和和和和和和和和	和	和	和	和	和		和	和	和	和		和 現代中国
哀哀哀哀哀哀哀哀哀哀	哀	哀	哀	哀	哀		哀	哀	哀	哀		哀 現代中国

【呪】「呪」は「くちへん」の位置が動いた異体字(動用字)。日本では上代から江戸期まで「呪」の方が優勢。
 【周】説文篆文では「冂」の左肩が開いており、五経文字もその字体を採っているが、甲骨、金文を見る限り、左からが開いている必然性はないようだ。手書きの通用体では「周」が

書かれ、康熙字典に做った活字では「周」が使われるが、弘道軒も文部省活字も「周」。漱石は「周」を書くが太宰は「周」を書く。昭和24年の時点で岩田母型製造所に「周」の字体の母型はなかった。
 【和】金文を見るかぎり、この字は「禾(のぎへん)」ではな

く「木(きへん)」に従う字だったらしい。説文篆文では「味」で郭店楚簡の字体と合致するが、他に合致する例がみつからない。康熙字典では説文篆文の「味」を古文としている。
 【哀】日本では上部が「一」ではなく「㇇」が多い。また「口」の下に横線が加わる字体が優勢。そのような字体は中国では

北魏および唐代の楷書にある。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
咽	イン・エツ のど のむ むせぶ 新①								元順嘉誌 無上秘要④ 干祿字書 王勃詩序
									王基嘉誌 龜山玄錄
									元寧嘉誌
咳	ガイ せき ①								説文篆文 馬王堆 夏承碑 響替指歸
									説文古文
哉	サイ かな や 人①								金文 子鼎庫楚帛 敦熒漢簡 西狹頰 智永千字文 蘭亭叙 饒宝子碑 等慈寺碑 干祿・序 響替指歸
									金文 戦国・金文 響龍顔碑 等慈寺碑 江戸干祿・序 響替指歸
									鄭義下碑 孔子廟堂碑 五経<説文> 響替指歸
									高華英嘉誌 伊闕仏龕碑 五経<隸者>
咲	ショウ さき わらう 常①								郭店楚簡 説文篆文 敦熒漢簡 嘉平石経 十七帖 元順嘉誌 春秋左伝詔古 干祿字書 璣玉集
笑	ショウ えむ わらう 教4 常①								馬王堆 説文篆文 南華真経 江戸干祿 響替指歸
									馬王堆 寶林・金剛 鳩陀羅尼経
									馬王堆 九経字様 杜家立成
									馬王堆 九経字様 杜家立成

【咽】「大」は人が大の字になった形だが、腕を左右に伸ばし、脚を水平に伸ばせば「土」になる。「土」が「工」「ユ」「ヨ」に変化する。
【咲】「咲」と「笑」は異体字。現代中国では「咲」と「笑」は「笑」に統合されている。説文篆文には「笑」しかみえな

いが、十七帖の字体は明らかに「咲」をくずしているの、もしかしたら古文に「咲」に近い字もあったのかもしれない。康熙字典では「咲」を「笑」の古文としている。顔真卿の書による干祿字書は「竹十犬」を〈正〉とし、「咲」を〈通〉としている。江戸期の官版の干祿字書では〈正〉が「竹十犬」

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												咽 現代中国
												咳 現代中国
												哉 現代中国
												咲 現代中国
												笑 現代中国

になっている。五経文字は「竹十犬」になっている。九経字様では「笑」と「竹十犬」の字体の2種が載っている。江戸期の版本の『大日本永代節用無尽蔵』には「咲」に「わらう」と振り仮名がついている例があり、「笑」と「咲」の使い分けはまだはっきりしていない。陸軍幼年学校用字便覧では「咲

ハ多ク大きくトイフ時ニ用イラル」とあるから、大正に入った頃には使い分けがあったようだ。漱石は「竹十犬」と「竹十犬」の2種の字体を使っている。漱石は干祿字書と五経文字の両方を見ていたのだろうか。漱石の友人の中村不折が干祿字書の拓本を持っていたのはわかっているのだが。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
品	シン ホン しな 教3 常①								
啞	ア ①								
啞	③								
員	イン かず 教3 常①								
唄	バイ うた 新①								
唢	サ そのかず 常①								
哨	ショウ 人①								
唇	シン くちびる 常①								
脣	シン くちびる ②								

【品】江戸期の『大日本永代節用無尽蔵』の書き方は独特。漱石は下の「口」2つをつなげて書く。太宰治も同じ書き方なのは驚き。同じものが3つあるときに下の2つを点4つで書くのは一般的。現在も「澁」の旁を「澁」と書く。かつては「森」などもそのように書いた。

【唇】書道字典には「唇」は不掲載で、かわりに「脣」が載っている。『説文解字』（大徐本）を見ると「唇」が載っているが、解説に「驚也」とあり、「唇」は「驚く」という意味の別字だったようだ。『陸軍幼年学校用字便覧』には「唇ハモトおどろくノ義、今唇ト通用シテくちびるノ義トス。」とある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考

空海は「郭晉指歸」でにくづきを「肉」の形に書いている。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
啄	タク 人①		𠂔				啄	啄	啄
								啄	
								啄	
哲	テツ あきらか ざとい 常①	𠂔	𠂔	喆	哲	哲	哲	哲	哲
		𠂔	𠂔	喆			哲	哲	
		𠂔	𠂔				哲	哲	
		𠂔	𠂔				喆		
唐	トウ から 常①	𠂔	𠂔	唐	唐	唐	唐	唐	唐
		𠂔	𠂔	唐			唐	唐	
		𠂔	𠂔	唐			唐	唐	
				唐					
哩	マイル リ 人①								
哺	ホ ふくむ はくくむ 新②		𠂔	哺			哺	哺	哺
喝	カツ しかる 常①		𠂔						喝

【啄】顔真卿の干祿字書と江戸期の版本の干祿字書で字体が異なる。弘道軒の字体が興味深い。
 【哲】金文では多く下部を「口」ではなく「心」に作る。説文に「吉」を3つ書く古文が示されている。
 【唐】説文篆文や馬王堆を見る限り本来は「广(まだれ)」の

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
啄	啄	啄	啄				啄					啄
尼崎万葉 16	心学道歌集	口 8										現代中国
唐	唐	唐	唐				唐	唐		唐		唐
和歌体十種	節用	口 7										現代中国
		嘉										
唐	唐	唐	唐	唐			唐	唐		唐		唐
粘葉本朗詠	再板農業全書	口 7								×		現代中国
	唐	唐										
	再板農業全書	古文										
			哩	哩			哩					哩
			口 7									現代中国
			哺	哺								哺
												現代中国
	喝	喝	喝				喝					喝
	節用	口 9										現代中国

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
啓	ケイ ひらく もつす								
商	ショウ あきなう はかる								
唱	ショウ となえる うたう								
唾	ダ つば つばき								
問	モン いとう とん								

【商】干祿字書に「商」の俗として、また五経文字に訛として「商」が載っているが、「商」を「テキ」と訛む別字として扱っている字書もある。「商」を「商」として使っている例は日本では空海の風信帖と漱石に見られる。

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
											啓 千祿<通> 現代中国
											啓 中国繁体
											商 千祿<俗> 現代中国
											商 江戸五経<訛>
											唱 現代中国
											唾 現代中国
											問 現代中国

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
唯	ユイ ただ								藤原行成 法華義疏
									聖武天皇雜集
									豐替南歸
營	エイ いとなむ								杜家立成
喚	カン よぶ								杜家立成
									大聖武
									珊玉集
喜	キ よろこぶ								王勃詩序
									王勃詩序
									伝範岫天皇

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
喫	キツ くむ のむ 常①		喫						喫
									喫
喬	キョウ たかい 人①	喬 金文 喬 侯馬盟書 喬 郭店楚簡	喬 説文篆文	喬 馬王堆			高 伊闕仏龕碑	喬 江戸干禄 喬 王勃詩序	喬
		喬 金文 喬 侯馬盟書 喬 包山楚簡						喬 五経文字	
		喬 金文 喬 侯馬盟書							
		喬 金文							
喰	くいう 人①								
喧	ケン かまびす しい 人①						喧 宣 出家人文書種成法 喧 宣 霍漢墓誌	喧	喧 王勃詩序
喉	コウ のど 新①		喉				喉 喉 元暉墓誌 喉 喉 蘇孝慈墓誌	喉	喉 杜家立成 喉 雙替指歸 喉 雙替指歸

【喫】説文所無。中国での使用例がみつからない。現代中国では「喫」と「吃」が統合されている。

【喬】上部を「右」に作るのが通用字体。王勃詩序ではすでに「右」の書き順が変化している。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
喫	喫	喫	喫				喫	喫	喫	喫		吃 現代中国
喫												
喫	喬	喬	喬				喬	喬				高 乔 江戸干禄・俗 現代中国
							喬					
喰	喰		喰	喰			喰					国字
喧	喧	喧	喧	喧			喧	喧				喧 現代中国
喉	喉	喉	喉	喉			喉	喉				喉 現代中国

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期				
善	ゼン よい		善 毛公鼎	善 睡虎地秦簡	善 説文篆文	善 馬王堆	善 馬王堆	善 淳化閣帖	善 集字聖教序	善 費華夫人墓誌	善 等慈寺碑	善 干祿・序	善 杜家立成
			善 金文	善 睡虎地秦簡	善 説文篆文	善 馬王堆	善 馬王堆	善 智永千字文	善 寧陵公主墓誌	善 九成宮醜泉銘	善 江戶干祿・序	善 杜家立成	
			善 包山楚簡	善 説文籒字古文	善 馬王堆	善 馬王堆	善 明姜愷墓誌	善 雁塔聖教序	善 五經<説文>				
				善 馬王堆	善 居延漢簡	善 李元姜墓誌	善 五經<石經>						
				善 馬王堆	善 武威漢簡								
				善 馬王堆	善 小子殘碑								
				善 馬王堆	善 張遷碑								
喪	ソウ もうしなう	喪 甲骨	喪 金文	喪 郭店楚簡	喪 説文篆文	喪 馬王堆	喪 小子殘碑	喪 張芝	喪 争乱帖	喪 鄭義下碑	喪 皇甫誕碑	喪 干祿字書	喪 王勃詩序
		喪 甲骨	喪 金文	喪 睡虎地秦簡	喪 馬王堆	喪 曹全碑	喪 李超墓誌	喪 五經<説文>	喪 光明皇后				
		喪 甲骨	喪 毛公鼎		喪 馬王堆	喪 熹平石經	喪 五經<隸變>	喪 璣玉集					
		喪 甲骨			喪 馬王堆	喪 韓仁銘							
		喪 甲骨			喪 馬王堆								
喋	チョウ しゃべる		喋 説文篆文										喋 現代中国

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
善	善	善 口9	善	善	善		善	善	善	善	善	善 現代中国
		善 古文		善								
		善 古文										
		善 古文										
		善 古文										
喪	喪	喪 口9	喪				喪	喪	喪	喪	喪	喪 干祿<通> 現代中国
		喪 古文										
		喪 古文										
		喪 古文										
		喪 古文										
		喋 口9	喋	喋			喋					喋 現代中国

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
嚙	ソン うわさ 人①		嚙				嚙	嚙	嚙
噉									
噉	ゴウ かみ ①								
噉	ゴウ かみ かむ ③								
器	キウ つわ 教4 常①		器	器	器	器	器	器	器
噐	キウ つわ ②		噐	噐			噐	噐	噐
噐	キウ つわ 人③		噐	噐			噐	噐	噐
囁	ショク 常①				囁		囁	囁	囁
囁	ショク ②						囁	囁	囁
噴	フン ふく はく 常①		噴				噴	噴	噴
舖	ホシ く みせ 常①		舖	舖			舖	舖	舖
舖	ホシ く みせ ①							舖	舖
舖	ホシ く みせ ②							舖	舖

【嚙】JIS2004で「嚙」から「嚙」に例示字体が変更された。また2004年に人名用漢字に追加された。

【噉】大きく分けて中央が「犬」「大」「土」「工」「ユ」と5つの字体がある。「大」では意味が通じないという意見もあるが、犬の象形が「大」となることもある。「大」が水平に開脚

すれば「土」になり、「土」の縦線が上に出なければ「工」になり、「工」を早書きすれば「ユ」になる。「土」「工」は漢代にはすでに使われている。もしかしたら生け贄の「犬」の代わりに、呪具の「工」を使う字体があったのかもしれない。

【囁】康熙字典に「囁」と「囁」が別々に載っている。漢字要

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	嚙	嚙	嚙				嚙		嚙			嚙 現代中国
	噉	噉										
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉										
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉	噉									
	噉	噉	噉				噉		噉			噉 現代中国
	噉	噉										

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
嘲	チョウ トウ あざける からかう 新②								
噸	トン ①								
噤	はなし ①								
四	シよ よつ よつ よん 教1 常①								
囚	シュウ とらえる 常①								
因	イン ちちなむ 教5 常①								
回									

【因】「口」の中の「大」は開脚すれば「土」になり、頭を省けば「工」になり、早書きすれば「ユ」になり、さらに「ヨ」に変化する。日本に伝わった字体は「因」と「回」。干禄字書では「因」を〈正〉、「回」を〈俗〉とする。干禄字書では「大」の右払いを止めているが、五経文字では払っている。狭

い四角の中で払うというのは不自然。教育漢字も払っているが、手書きの字体を教えるのなら再考の方がよい。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												嘲 嘲 IS2004 以前 現代中国
												噸 吨 現代中国
												噤 国字
												四 四 北周・華嚴經 現代中国
												囚 囚 現代中国
												因 因 干禄 俗 現代中国

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
回	カイ まわす まわる かえる								蜀玉集
回	②								伝空海急就草
団	グン ト まどか まるい								
團	人②								
圀	イ かこう かこむ								葉毅論
圍	②								二荒山碑文
圍									
困	コン こまる くるしむ								杜家立成
囿	スト はかる								聖武天皇雜集
圖	②								聖武天皇雜集
									久隔帖

【回】江戸版本では「回」が多く使われている。康熙字典は「回」を本字としている。明治の漢字も「回」を本字としている。陸軍幼年学校用字便覧では「回」を正字、「回」を古字としている。

【団】口の中に「專」が正字体、「專」が通字体、「寸」は略字

体。正字体も楷書と明朝体では字体が異なる。
【囿】正字体「囿」の構成要素「章」について。単体の漢字としては10画だが、部首では「囿」のように、下部を3画とし、9画の画数に分類される。ところが常用漢字の構成要素になる場合は、「儻」のように下部を4画とし、画数は10画

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												回 陸軍<正字> 現代中国
												回 陸軍<古字> 干禄<俗>
												回 陸軍<別体>
												団 現代中国
												圀 現代中国
												困 現代中国
												囿 現代中国
												圖 現代中国
												圖 陸軍別字
												圖 陸軍別字

として数える。これが我が国の施策である。康熙字典では一貫して9画に数える。
【困】「くにごまえ」という囲まれた空間の中で「木」に右払いがあるのはおかしい。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
固	コ かたい かたまる かためる	固	固	固	固	固	固	固	固
教4 常①		包山楚簡 睡虎地秦簡	説文篆文	銀雀山竹簡 西狭頌	書譜	集字聖教序	龔龍頌碑 孔子廟堂碑	江戸千祿・序 聖武天皇雜集	
国	コク くに	国	国	国	国	国	国	国	国
教2 状①		金文 新蔡葛陵楚簡	説文篆文	銀雀山竹簡 史晨前碑	集字聖教序	集字聖教序	北齊開造像記 九成宮	干祿・序 法華義疏	
國	人②	或	或	或	或	或	或	或	或
		金文 曾侯乙墓		敦煌漢簡 禮器碑	智永千字文		鄭義下碑 殷玄祥 契苾明碑		王勃詩序
圀	②	圀	圀						王勃詩序
		金文							賢愚經
圃	ホ はたけ	圃	圃	圃			圃	圃	圃
人①		甲骨 金文 包山楚簡	説文篆文				元祐墓誌 薛巖		王勃詩序
		殷・金文							
卷	ケン かこい		卷	卷	卷		卷	卷	卷
常①		包山楚簡	説文篆文	馬王堆			元祐墓誌		荆玉集
圈	人②		圈						
		包山楚簡							
		睡虎地秦簡							
園	エン その		園	園	園	園	園	園	園
教2 常①		睡虎地秦簡	説文篆文	居延漢簡 馬姜墓誌	淳化閣帖 浮化閣帖		元祐墓誌 温彦博碑		王勃詩序
				魯峻碑 智永千字文			高宗顯祖氏墓誌		王勃詩序

【国】「口」の中に「或」が正字体。中国の南北朝時代に「口+王」が見える。これは領土の中に王様がいるというような、会意による字だろう。一方、「口+玉」は平安時代に見える。この「玉」は「或」の草書からできた字だろう。「口+八方」は則天文字。「或」の「口」は手書きでは「△」や「ム」の形

に書かれる。「口」は二つの点にくずすことがある。
 【圃】甲骨では「口」のない字体。漱石は「田圃」、「田甫」の両方を書いている。
 【園】「くさかんむり」がついた例が中国の南北朝時代、日本の上代、平安時代に見える。江戸時代には草書で「くさかん

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
固	固	固	固	固			固	固	固	固		固
粘葉本朗詠	古今千五箇部切韻	口5										現代中国
国	国	国	国	国	国	国	国	国	国	国		国
春秋穀梁伝集解	算法地方大成	口8			明治の漢字					×		現代中国
國	國	國	國	國	國							
春秋穀梁伝集解	五常俗談集	古文			明治の漢字							
圀	圀											
元暦萬葉④	世宗親王御記				陸軍							
圃	圃											圃
藤原行成	節用	口7										現代中国
卷	卷											卷
		口8								×		現代中国
園	園	園	園	園	園							園
三体白詩卷	再版農業全書	口10										現代中国
藤原道長	再版農業全書											
黒流本朗詠	節用											

むり」があり、「口」を省いた例がある。

【土】⁰土²庄³圭在

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)			説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)		草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)		正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
土	ド ト つち												
土	教1 常①	甲骨	大孟鼎	郭店楚簡	説文篆文	馬王堆	禮器碑	十七帖	集字聖教序	元珍墓誌	等慈寺碑	干祿字書	法華義疏
土	③			睡虎地秦簡		馬王堆	史晨前碑			元通墓誌	九成宮		聖武天皇雜集
土	③					居延漢簡				南石碣寺碑	雁塔聖教序		聖武天皇雜集
						敦煌漢簡							王勃詩序
													璣玉集
圧	アツ おさえる												
圧	教5 常①				説文篆文					元徴墓誌			璣玉集
壓	②												性靈集
圭	ケイ たま												
圭	人①	甲骨	金文	郭店楚簡	説文篆文	居延漢簡	中岳嵩高靈廟碑			貝義通書簡碑	孔子廟堂碑	江戸五経	響替指鉤
			毛公鼎	楚竹簡(上海)	説文篆文					李峻華墓誌		江戸五経	
在	ザイ あります												
在	教常①	甲骨	金文	睡虎地秦簡	説文篆文	馬王堆	禮器碑	十七帖	集字聖教序	張猛龍碑	九成宮	干祿・序	王勃詩序
						居延漢簡				響龍顔碑		五経文字	
						武威漢簡							

【土】点が付く例が多い。「土」には点のついた例が見えないので、点をつけることによって「土」と区別していたのかもしれない。点のついた「土」は干祿字書では<通>。日本の上代から平安には「土」の字体の「土」もある。
【圭】「王」のついた古文がある。五経文字では「王」のついた

字体を古文とはせず、正字体として扱っている。本来は「土+土」だが隸書以降は、「横線4本+縦線1本」の字体が出現する。
【在】説文に「从土才聲」つまり「(意味は)土に従い才の(音)」とされる字だが、甲骨や金文に「才」だけの字形が

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
伝嵯峨天皇	源身往来	土0										干祿<通>	現代中国
伝藤原行成	算法地方大成												
藤原道長	礼容筆粹												
粘葉本朗詠													
安宅切													
色紙法華経巻	節用	土14										現代中国	
	名家手簡	土3										圭	
												現代中国	
粘葉本朗詠	節用	土3			明治の漢字(書)							現代中国	
粘葉本朗詠	節用				明治の漢字(書)								

るので、「才」は音だけを表すものではなさそうだ。また、金文に「土」ではなく「土」と思われる字形がある。つまり、「才+土」の形声ではなく、「才+土」の会意の可能性もあると思う。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
坂	ハン さか	坂	坂	阪	坂	坂	坂	坂	坂
阪	ハン さか	阪	阪	阪	阪	阪	阪	阪	阪
坊	ボウ ボツ へや まち	坊	坊	坊	坊	坊	坊	坊	坊
堯	ギョウ たかい	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯
堯	人①	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯
堯	人②	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯	堯
坤	コン ひつじさる	坤	坤	坤	坤	坤	坤	坤	坤
⊍	②	⊍	⊍	⊍	⊍	⊍	⊍	⊍	⊍
垂	スイ たらす たれる なんなんとする	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂
垂	②	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂

【坂】古代には「坂」と「阪」が両方あった。説文には「阪」しか掲載していない。干祿字書は「阪」を〈正〉、「坂」を〈通〉としている。康熙字典は「坂」と「阪」を別々に掲載し、異体字としての説明はない。我が国では「坂」が多く使われ、「阪」の使用例は少ない。

【坤】異体字「⊍」の来歴がよくわからない。干祿字書では「⊍」を〈通〉としている。「⊍」はJIS第二水準にあるが、「川」の異体字の扱いである。

【垂】康熙字典は「垂」を正字、「垂」を俗字としている。隸書以来、下部を「山」の形にする字体が一般的だが、五経文

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂	坂
		阪	阪		阪	阪						坂
坊	坊	坊	坊	坊	坊		坊	坊	坊	坊		坊
堯		堯					堯					堯
		堯										堯
坤	坤	坤	坤				坤					坤
		⊍										⊍
垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂	垂
		垂			垂	垂						垂
		垂			垂	垂						垂
		垂			垂	垂						垂

字はその字体を〈訛〉とする。下部が「山」の形になる字は漱石も書いている。明治の漢字は「垂」を標準、「垂」を許容としているが、陸軍では「垂」を正体、「垂」を別体としている。漢字整理案の字体2と標準体はどこが異なるのかわからない。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
坦	タン たいら 人①		坦 包山楚簡	坦 説文篆文			坦坦 北史魏碑墓誌 章瓊墓誌		
坪	へい つぼ 常①	坪 金文	坪 金文	坪 説文篆文					
			坪 金文						
			坪 包山楚簡						
垣	エン かき 常①		垣 金文	垣 説文篆文	垣 馬王堆	垣 史晨後碑	垣垣 元孟輝墓誌 泉男生墓誌		垣 王勃詩序
			垣 睡虎地秦簡	垣 説文籀文	垣 馬王堆	垣 西嶺華山廟碑	垣 李氏墓誌		
					垣 居延漢簡				
型	ケイ かた 教4 常①	型 金文	型 郭店楚簡	型 説文篆文					
		型 金文	型 上海楚竹書						
		型 金文	型 長沙子暉楚簡						
			型 長沙子暉楚簡						
垢	コウ くあか ①			垢 説文篆文	垢 龍龕父龍作規記	垢 智永千字文	垢垢 隴福寺碑		垢 魏書・空輿諸表目錄
								垢 石堂碑・二荒山碑文	
								垢 中阿合經	

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
	坦 節用	坦 土5				坦					坦 現代中国
	坪 算地方大成	坪 土5	坪	坪		坪坪		坪	×		坪 現代中国
	坪 算地方大成										
垣	垣 元暦萬葉①	垣 算地方大成	垣	垣		垣					垣 現代中国
		垣 古文	垣								
型	型 説文篆文	型 土6	型	型		型型		型型			型 現代中国
		型 古文									
垢	垢 平清盛願文	垢 節用	垢	垢		垢		垢			垢 現代中国

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期		
城	ジョウ しる きづく		城 説文篆文	城 銀雀山竹簡	城 張遷碑	城 十七帖	城 集字聖教序	城 元珍墓誌	城 孔子廟堂碑	城 王勃詩序	
			城 説文篆文	城 馬王堆	城 三老碑字忌日記		城 孫秋生造像		城 風信帖		
			城 説文篆文	城 居延漢簡	城 史晨後碑						
			城 説文篆文	城 居延漢簡	城 曹全碑						
埋	マイ うまる うめめる うもれる うづめる						埋 集字聖教序	埋 干祿字書	埋 杜家立成		
							埋 王知敬・李靖碑	埋 枯樹賦			
							埋 貴華恭夫人墓誌				
域	イキ さかい		域 説文篆文	域 馬王堆	域 龍門碑陰	域 書譜	域 集字聖教序	域 趙充華墓誌	域 雁塔聖教序	域 王勃詩序	
			域 説文篆文	域 馬王堆	域 曹全碑		域 元誦墓誌	域 道因法師碑			
或	ワク ある あるいは		或 説文篆文	或 銀雀山竹簡	或 西嶽華山廟碑	或 淳化閣帖	或 集字聖教序	或 高貞碑	或 化度寺碑	或 干祿字書	或 法華義疏
			或 説文篆文	或 武威漢簡	或 石門頌		或 劉根等造像記	或 道因法師碑	或 五經文字	或 王勃詩序	
			或 説文篆文	或 曹全碑							
基	キ もととい もとづく		基 説文篆文	基 馬王堆	基 石門頌	基 智永千字文	基 集字聖教序	基 南石窟寺碑	基 孟法師碑	基 聖武天皇雜集	
			基 説文篆文	基 馬王堆	基 張遷碑	基 孫過庭・千字文	基 元梯墓誌	基 伊闕仏龕碑	基 王勃詩序		
			基 説文篆文	基 武威漢簡			基 吳順墓誌				

【城】説文には籀文が載っているが、康熙字典には異体字が載っていない。

【埋】説文の字体の使用例をみつけられない。

【域】説文は「或」をあげ、「城」を或体(異体字)としているが、前漢以前には「城」の字体は見えない。「城」は後漢代に

できた字で、意味と音も異なるようだ。唐代の五經文字の序には「惑體」という記述があり、「或」と「惑」が通用していた可能性がうかがえる。

【基】南北朝期は「土」に点の付く字体が多数派だが、唐代には点のない字体が多数派。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
城	城	城	城	城	城		城	城		城	城	城	城
粘葉本朗詠	日本永代蔵	土7			教科書<正>					×		現代中国	
城	城			城	城								
粘葉本朗詠	農家文章大全				教科書<俗>								
	城												
	城												
埋	埋	埋	埋	埋			埋	埋		埋	埋	埋	埋
粘葉本朗詠	算法地方大成	土7										江戸干祿<通>	現代中国
埋	埋												
粘葉本朗詠	節用												
域	域	域	域				域	域		域	域	域	域
尊門親王		土8											現代中国
或	或	或	或	或	或	或	或	或		或	或	或	或
元暦萬葉②	庭訓往来	戈4			教科書<正>							干祿字書<通>	現代中国
	或			或	或							或	
	或				教科書<俗>							或	
	或											或	
	或											或	
	或											或	
基	基	基	基				基	基		基	基	基	基
元暦萬葉②		土8											現代中国
粘葉本朗詠	古文												

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
埼	さき 人→新①								
崎	キサキ けわしい 常①		𠄎	崎			崎 崎	崎	雙臂指歸
碕	キサキ ①								
執	シツ シュウ とる 常①	𠄎	𠄎	執	執	執	執 執 執 執 執 執 執 執	執 執 執 執	法華義疏
		𠄎	𠄎	執	執		執 執 執 執	執 執 執 執	璚玉集
		𠄎	𠄎	執	執		執 執	執 執	
		𠄎	𠄎	執	執		執	執	
		𠄎	𠄎	執	執		執	執	
		𠄎	𠄎	執	執		執	執	
		𠄎	𠄎	執	執		執	執	
		𠄎	𠄎	執	執		執	執	
埴	ショク はに 人①		埴	埴	埴			埴	五経文字
堆	タイ ツイ うずたかい 人→新①		堆	堆			堆	堆	丘首墓誌
堂	ショク はに 人①	堂	堂	堂	堂	堂	堂 堂 堂 堂 堂 堂 堂 堂	堂 堂 堂 堂	杜家立成
		堂	堂	堂	堂		堂 堂	堂 堂	璚玉集
		堂	堂	堂	堂		堂	堂	
		堂	堂	堂	堂		堂	堂	

【執】古代の文字を見ると、旁は「丸」ではないようだ。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
埼		埼	埼				埼					埼 現代中国
崎	崎	崎	崎	崎	崎		崎					崎 現代中国
		碕	碕									碕 現代中国
執	執	執	執				執	執	執	執		執 現代中国
		執										
埴	埴	埴	埴				埴					埴 現代中国
堆	堆	堆	堆				堆					堆 現代中国
堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂	堂		堂 現代中国
		堂	堂									
		堂	堂									
		堂	堂									
		堂	堂									

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
塚	チュウ つか								伝空海急就草
塚									蜀玉集
堤	テイ つつみ								王勃詩序
隄									
堵	トカ かき								五經文字
堵									
塔	トウ								法華義疏
塀	ヘイ								
塀									

【塚】元々は「土偏」のない字だったらしい。

【塀】国字とする字書と、国字としない字書がある。

【堤】干禄字書では「隄」を〈正〉、「堤」を〈俗〉とする。明治の漢字では「隄」を〈正〉、「堤」を〈許容〉とするが、陸軍では反対に「堤」を〈正〉、「隄」を〈通〉とする。

【堵】JIS2004で例示字体が「堵」から「堵」に変更された。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
家												家 現代中国
冢												
冢												
塚												
堤												堤 現代中国
隄												
隄												
隄												
堵												堵 現代中国
堵												
塔												塔 現代中国
塔												
塀												国字
塀												